



## 構成的グループエンカウンター

構成的グループエンカウンター(Structured Group Encounter)をご存知ですか。それぞれの思いを表現し合い、それを互いに認め合う体験活動のことです。

SGEという言い方も定着し、学校現場や看護の現場などで幅広く用いられています。この体験が、自分や他者への気づきを深め、人と人とがふれあう喜びやわが道を力強く歩む勇気をもたらします。

やり方は、教員の指示(インストラクション)した課題をグループで遂行(エクササイズ)し、その時の気持ちを語り合う(シェアリング)というものです。

SGEは、人間関係づくりや自己理解に関して、強固な理論的背景をもって、教育現場での実施に対応できる活動例を豊富にもっています。

その一つが右の例で、休校開けに各学級で実施した「喜怒哀楽」シートです。ステーション中、どんなことをして過ごしたのかを交流するものです。とはいっても三密を避けるため、シートを回し読みして感想を少しだけ伝えるといったやり方でした。努力していたことを紹介し合いたかったので、「怒」を「努」に替えています。



関係が希薄なままスタートした新学期ですが、少しは、仲間同士の交流機会になったと思います。

このようなことを行うのがSGEです。ふれあいと自他発見が促進されます。

### コラム：國分康孝先生

康孝先生は、私の人生の師でもありカウンセリング心理学の先生です。

先生は、日本教育カウンセラー協会を立ち上げました。その旗印は、「教育の専門家(つまり教員)が、カウンセリングの理論と技術を学び、それを駆使して援助に当たれる者(スクールカウンセラー)となれ。」です。私が、上級教育カウンセラーの資格を取得したのも先生の旗印の下に集った者の一人としての必然でした。

私には、教員がカウンセラーをやるという康孝先生の思いを今、実現しているという自負と喜びと誇りがあります。

先生がお亡くなりになったのは、2年前の4月19日。満88歳。その日は、私の誕生日でした。先生を平成元年に知った後、平成7年からは、先生の主催する構成的グループエンカウンターに何度となく参加しながら、東京の茗荷谷にある筑波大学大学院で行われる先生のゼミやその後の研修会に足繁く通ったのが懐かしい。もう四半世紀前のことですが。